

## キャリア教育について

～学校での共通理解に向けて～

平成 年 月 日( ) 時 分～

## キャリアとは？

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の**連鎖**及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの**累積**

小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引  
(文部科学省 H18.11)

## 働くとは？

職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動としてとらえる。

小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引  
(文部科学省 H18.11)

## キャリア教育で目指すこと

すべての教育活動において、**子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつ、たくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする**

キャリア教育推進の手引より

## キャリア教育に取り組む意義

### キャリア教育は

一人一人のキャリア発達や個としての自立を促す視点から、従来の教育の在り方を幅広く見直し、改革していくための理念と方向性を示す

キャリアが子どもたちの発達段階やその発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、子どもたちの全人的な成長・発達を促す視点に立った取組を積極的に進める

子どもたちのキャリア発達を支援する観点に立って、各領域の関連する諸活動を体系化し、計画的、組織的に実施することができるよう、各学校が教育課程編成の在り方を見直していく

キャリア教育推進の手引より

## キャリア教育の定義

**児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育**

**端的には、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育**

キャリア教育推進の手引より

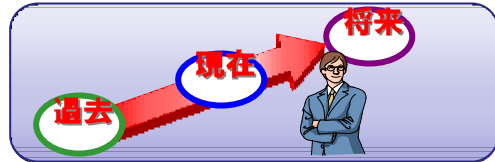
## キャリア教育の範囲

キャリア発達には、児童生徒が行う全ての学習活動等が影響するため、キャリア教育は、学校全ての教育活動を通して推進されなければならない

キャリア教育推進の手引より

## キャリア発達とは？

発達とは生涯にわたる変化の過程であり、人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中でキャリア発達とは、自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。



## なぜキャリア教育が必要なのか？

背景 1  
学校から社会への移行をめぐる課題

背景 2  
子どもたちの生活・意識の変容

世の中も子どもたちも変わった。

↓  
諸問題の顕在化      フリーター・ニートの存在  
7 5 3 現象（早期離職率の上昇）

↓  
国として（文部科学省、厚生労働省、経済産業省等）の対応が必要

↘  
キャリア教育の推進

### 背景 1

学校から社会への移行をめぐる課題

#### 就職・就業をめぐる環境の激変

新規卒者に対する求人状況の変動  
求職希望と求人希望との不適合の拡大  
雇用システムの変化

#### 若者自身の資質等をめぐる課題

勤労観、職業観の未熟さ  
社会人・職業人としての基礎的資質・能力が未成熟  
社会の一員としての意識の希薄さ

### 背景 2

子どもたちの生活・意識の変容

#### 子どもたちの成長・発達上の課題

身体的な早熟傾向に比して、精神的・社会的自立が遅れる傾向  
働くことや生きることへの関心、意欲の低下

#### 高学歴社会におけるモラトリアム傾向

職業について考えることや、職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向のたかまり  
進路意識や目的意識が希薄なまま、進学・就職する者の増加

### 国としての対応

文部科学省： **キャリア教育**

経済産業省：雇用の安定・起業家の育成

厚生労働省：資格の認定・ハローワーク等の充実

# キャリア教育で 育成が期待される能力とは？

## 【文部科学省】 【4領域8能力】

キャリア発達にかかわる諸能力 = 児童生徒が将来、自立した社会人・職業人として生きるために必要な能力

4領域	8能力	
人間関係形成能力	自他の理解能力	コミュニケーション能力
情報活用能力	情報活用・探索能力	職業理解能力
将来設計能力	役割把握・認識能力	計画実行能力
意思決定能力	選択能力	課題解決能力

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)  
～職業的(進路)発達にかかわる諸能力育成の観点から(国立教育政策研究所 H14)

### 【経済産業省】 【社会人基礎力】

分類	能力要素
前に踏み出す力 (アクション)	主体性
	働きかけ力
	実行力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力
	計画力
	創造力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力
	傾聴力
	柔軟性
	状況把握力
	規律性
	ストレスコントロール力

### 【厚生労働省】 【就職基礎能力】

就職基礎能力	要素
コミュニケーション能力	意思疎通
	協調性
	自己表現能力
職業人意識	責任感
	向上心・探求心
	職業意識・勤労観
基礎学力	読み書き
	計算・計数・数学的思考力
ビジネスマナー	社会人常識
	ビジネスマナー
資格取得	情報技術関係
	経理・財務関係
	語学力関係

# 学習プログラム例とは？

児童生徒の社会的・職業的自立に向け、各学校段階において育成が期待される能力・態度が、どの程度身に付いているかを見取るための図

横軸 各学校段階におけるキャリア発達課題

中学校	中学校
	現実的探索と暫定的選択の時期
	肯定的自己理解と自己有用感の獲得
	興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成
	進路計画の立案と暫定的選択
	生き方や進路に関する現時的探索

縦軸 キャリア発達にかかわる能力(4領域8能力)

学習プログラム例 平成14年 国立教育政策研究所より

キャリア発達課題

育成が期待される能力

# 学習プログラム例の 活用理由と活用上の注意

活用理由

計画的、組織的かつ  
系統的な取組

育成が期待される能力・  
態度を明らかにした キャ  
リア教育の推進

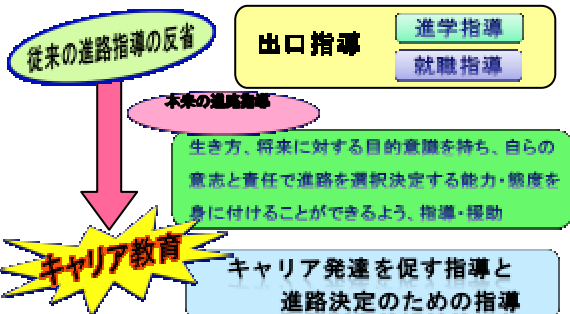
活用上の注意

育成が期待される具体  
的な能力・態度は、あ  
くまで参考例

一つの活動で、4領域  
8能力のすべてを身に  
付けさせる必要はない

# 進路指導との関係は？

キャリア教育 ≡ 本来の進路指導



## 進路指導との違いは？

**キャリア教育＝本来の進路指導**

### 本来の進路指導（6つの活動）

- 個人情報に基づいて生徒理解を深める活動  
と生徒に正しい自己理解を得させる活動 ⇒ **自己情報の理解**
- 進路に関する情報を得させる活動 ⇒ **進路情報の理解**
- 啓発的な経験をさせる活動 ⇒ **啓発的経験**
- 進路に関する相談の機会を与える活動 ⇒ **キャリアカウンセリング**
- 就職や進学に関する指導・援助の活動  
⇒ **卒業後の進路の選択決定への支援**
- 卒業生の進路に関する活動 ⇒ **進指導**

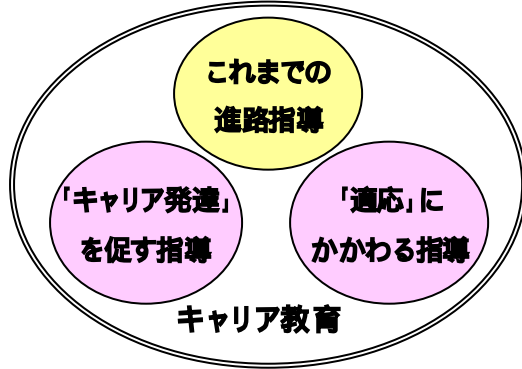
（文部省『中学校・高等学校進路指導の手引-進路指導主事編』 552）

## 「キャリア教育」と「これまでの進路指導」の比較

これまでの進路指導	キャリア教育
志望先の選択・決定等にかかわる「出口指導」に終始しがち＝「進路決定のための指導」に偏っていることが多かった。	「キャリア発達を促す指導」と「進路決定のための指導」とを調和をとって展開する。
生徒一人一人の適性と進路や、職業・職種との「適合」を主眼とした指導が中心である。	個人の適性と職業や進路先との「適合」とともに、将来自立した社会人・職業人となるために不可欠な、社会や集団への「適応」にかかわる指導をする。



## キャリア教育とは・・・



## キャリア教育推進の手順(例)

- 1 キャリア教育の視点を踏まえ、育てたい児童像を明確にする
- 2 学校教育目標、方針にキャリア教育を位置付ける
- 3 キャリア教育推進委員会を設置する  
校内組織、異校種間連携組織、地域の組織との連携
- 4 教職員の共通理解（校内研修）  
社会の動向、学校と社会との接続  
4つの能力にかかわる学習プログラムの神組み（例）  
キャリア・カウンセリングの必要性

キャリア教育推進の手引より

## キャリア教育推進の手順(例)

- 5 キャリア教育の視点で教育課程を見直す  
学校の特徴、課題の明確化  
児童生徒の発達段階を踏まえたキャリア教育の理解  
自校の学習プログラム及び取組内容の重点の設定  
学校間及び校種間の関連  
全体的な指導計画、年間指導計画、年間行事計画等への反映
- 6 キャリア教育を実践する
- 7 家庭、地域に対しキャリア教育に関する啓発を行う  
授業公開、学校だよりの発行等
- 8 キャリア教育の評価を行い、その改善を図る

キャリア教育推進の手引より

## キャリア教育の進め方

